# 速報展 発掘された鈴鹿2009

鈴鹿市考古博物館では、毎年市内遺跡の発掘調査の成果をいち早く皆さまにお知らせするため、速報展「発掘された鈴鹿」を開催しています。

2009年は8遺跡（8調査区）で発掘調査を行いました。発掘調査はその目的によって、考古学の研究上必要とされる場合に行われる学術調査と、開発など工事のために壊される場合に行われる緊急調査の2種類に分けられます。遺跡は現状のまま後世に残すのが望ましいのですが、開発に伴いやむなく壊される場合も少なくありません。市内では6遺跡が緊急調査によるものでした。

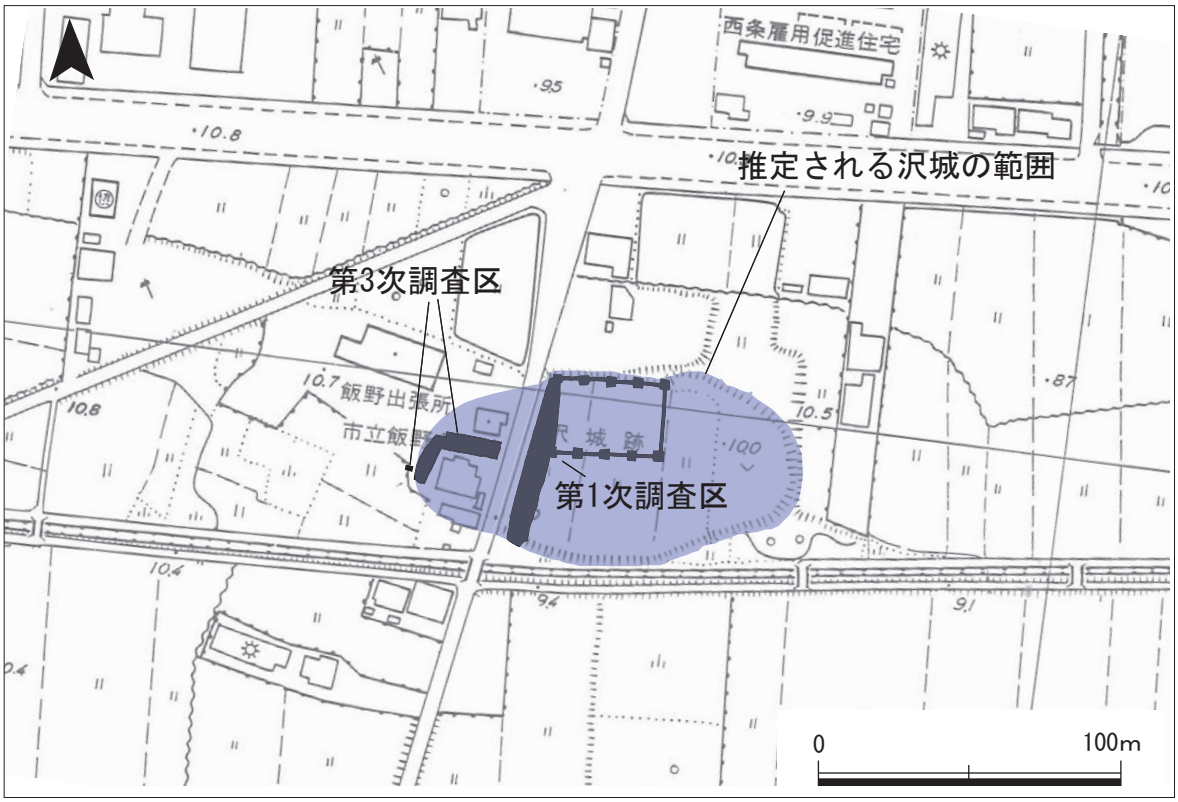
速報展では、出土した遺物とともに、発掘調査現場の様子や遺物の出土状況、遺構の詳細などを写真パネルや図面で紹介いたします。

この機会に、郷土の貴重な文化遺産に触れ、その保護への取り組みについてご理解いただけましたら幸いです。

弥生土器壺・甕　須賀遺跡第5次調査出土

# 沢城跡　第３次　飯野寺家町・西條町

２月２日～３月27日　個人住宅進入道路建設に伴う緊急調査




調査区位置図

鈴鹿市の中心地である神戸地区は、戦国時代以来神戸城の城下町として発展してきました。調査が行われた沢城跡は、神戸城が築城される以前に神戸氏が代々居住していた城であろうと考えられています。

今回の調査で城の全体の範囲が東西約130ｍ、南北約60ｍの東西方向に長い楕円形をしていたことが推定できるようになりました。また、従来から考えられてきたように平城であることも確かなものとなりました。

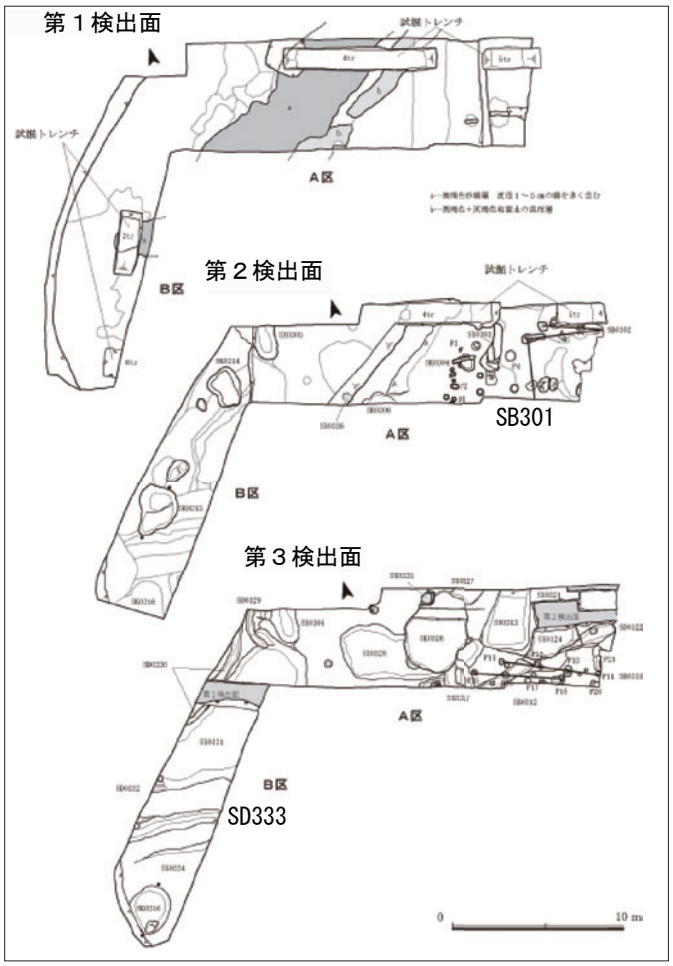
また、廓内部の土層の観察から３回以上は整地され建て替えられたなど築城方法もわかってきました。この層状に土をつき固めて整地された版築状の土層は、出土した遺物から14世紀頃に施工されたと考えられます。一説には沢城への神戸氏の入城は正平22年（1367年）とされていて、今回の調査結果はその年代と矛盾せず、文献を裏付ける資料となりました。

その他の成果としては、礎石建ち建物２棟が見つかり、多量の土師器皿と鳥の絵が墨書された端反皿、青磁碗破片、天目茶碗、土師器羽釜、鉄鏃をはじめ鉄製品が16点以上、取瓶、信楽焼の匣鉢、鞴羽口、常滑焼捏鉢なども出土しました。

匣鉢

土師器皿出土状況

端反皿




遺構配置図

礎石建ち建物 SB301

作業風景

溝 SD333

## 墨書土器

今回の発掘は３面の検出面で調査されましたが、第Ⅱａ層から出土した遺物のなかに鳥の絵が墨書された端反皿が混じっていました。15 世紀末～ 16 世紀初頭の時代のものと考えられます。

墨で描かれた２羽の鳥は、いったい何の鳥なのでしょうか？渡り鳥？雁？悠々と空を飛ぶ姿が印象的です。

# 須賀遺跡　第５次　矢橋三丁目

3 月 17 日～ 4 月 30 日　宅地造成事業に伴う緊急調査

作業風景

土器出土状況

遺構配置図

環濠断面

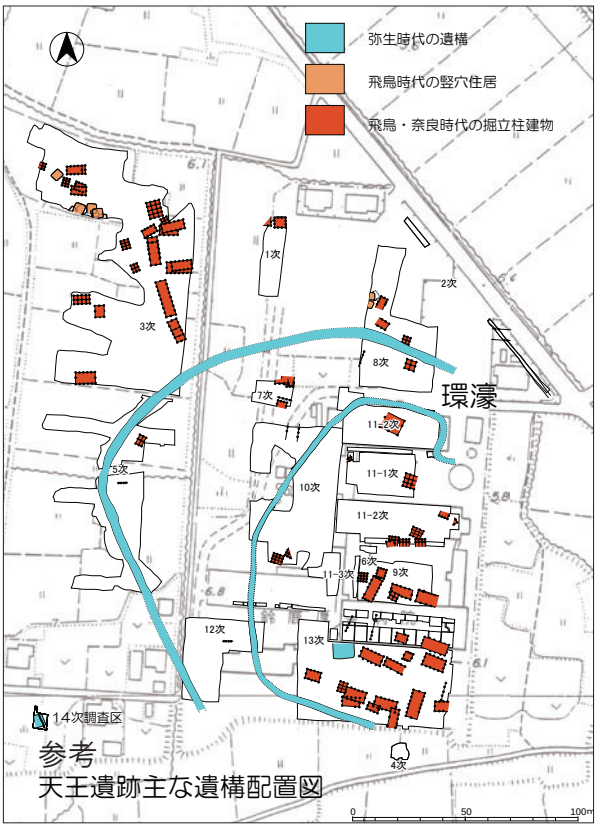
土器出土状況

須賀（すか）遺跡は、鈴鹿市役所の北東に所在する東西 700 m、南北 400 mに広がる鈴鹿川流域の遺跡です。過去の 4 度の調査で弥生時代～中世の遺構・遺物が見つかっており、特に弥生時代の溝からは多数の弥生土器が出土しています。

今回の調査では、環濠（かんごう）と考えられる大きな溝を検出し、そこから三重県最大の弥生時代中期の壺をはじめ大量の弥生土器が発掘されました。それらの遺物は質・量ともに優れた大きな成果で、鈴鹿市内にとどまらず県内でもきわめて重要な資料といえます。今後調査の整理が進めば、伊勢平野を代表する弥生時代の遺跡になる可能性をもっています。

## 市内の環濠集落

弥生時代には環濠集落と呼ばれる周りを大きな溝で囲んだムラが発達しました。防御を目的とした濠と考えられていますが、なかには二重に濠をめぐらせた二重環濠のムラもあり、佐賀県吉野ヶ里遺跡が有名です。環濠からは多量の土器が見つかることがありますが、今回の須賀遺跡の環濠からも膨大な量の弥生土器が発掘されました。鈴鹿市は県内でも弥生遺跡が多数所在する地域で、いくつもの環濠と考えられる溝を発掘しています。上箕田遺跡・南山遺跡・扇広遺跡・一反通遺跡・磐城山遺跡・天王遺跡などで環濠が確認されています。なかでも岸岡町の天王遺跡は大規模な環濠集落と考えられ、14次にわたる調査から二重環濠であることが確認されています。



三重県最大の弥生土器壺

弥生土器壺・甕・鉢

### 須賀遺跡出土の弥生土器

須賀遺跡は弥生時代～中世の複合遺跡ですが、なかでも弥生時代が最も盛行期にあたり、土器の出土は質・量ともに突出しています。5次調査では壺・甕を中心とした弥生土器の優品が多数出土し、環濠から発掘された壺は三重県最大のものと確認されました。

土器には弥生時代中期のものと前期のものが見られますが、今後の遺物整理など資料を研究することによって、詳しい時期や遺跡の様子が明らかになってくるでしょう。

## 岡太神社遺跡　第４次　　弓削二丁目

５月 19 日～６月９日　　個人住宅建設に伴う緊急調査

道路遺構

岡太神社遺跡は、鈴鹿川右岸の段丘上に位置する式内岡太神社を中心とした遺跡です。過去の調査では、平安時代末から鎌倉時代にかけての溝や土坑、井戸が見つかり、山茶碗などの中世陶器が出土しています。

今回の調査区は神社の南西に位置し、道路遺構、畔状遺構、柵、小柱穴を確認しました。

東西方向に走る道路遺構から、連続する南北に細長い土坑が見つかりました。この土坑は、道路の水はけをよくするための基礎工事と考えられます。出土遺物から鎌倉時代以降の道路と推測されますが、神社との関連は不明です。

## 国府Ａ遺跡　第２次　　国府町字西之条

５月 27 日～６月３日　　個人住宅建設に伴う緊急調査

土器出土状況

国府Ａ遺跡は鈴鹿川右岸の段丘上に位置します。

今回の調査では土坑３基と焼土１か所を確認し、土坑から奈良時代頃の土師器の杯や甕が出土しました。調査区内は後世の耕作により大部分が削られていますが、本来は竪穴住居であったと考えられます。

過去の調査で奈良時代前後の竪穴住居が１棟見つかっており、今回の調査結果と合わせると、当地に奈良時代頃の集落が広がっていたと考えられます。

## 神戸中学校遺跡　第３次　　神戸七丁目

11 月 12 日～ 11 月 26 日　　個人住宅建設に伴う緊急調査

神戸中学校遺跡は、鈴鹿川右岸の低位段丘上に位置する弥生時代～中世の複合遺跡です。

今回の調査区は遺跡の西端に位置し、溝と柱穴２基を確認しました。弥生土器、土師器、須恵器などが出土しています。

弥生土器壺

## 岡田南遺跡　第２次　　岡田三丁目

12 月９日～ 12 月 10 日　　下水管敷設に伴う緊急調査

岡田南遺跡は鈴鹿川右岸の低位段丘上、岡太神社遺跡東方に位置します。

平成 10 年に行われた調査では、古墳時代の土壙墓１基、方墳３基などが確認され、土壙墓からは勾玉、管玉、ガラス小玉、鹿角装の刀子の一部が出土しました。

今回の調査では、溝６条、柱穴１基、土坑２基を確認しました。柱穴から縄文土器、溝から弥生土器が出土しています。溝は方形周溝墓群の一部にあたるとみられます。

弥生土器壺

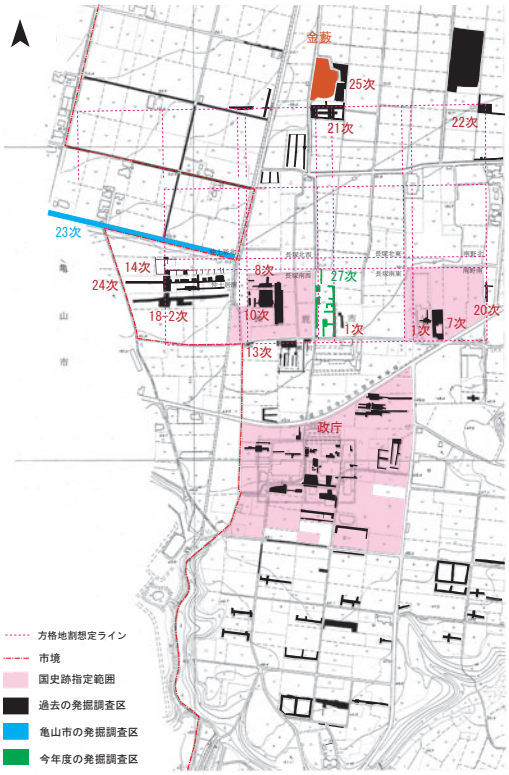
# 長者屋敷遺跡（伊勢国府跡）第 27 次　広瀬町字長塚

8 月 17 日～ 12 月 16 日　学術調査

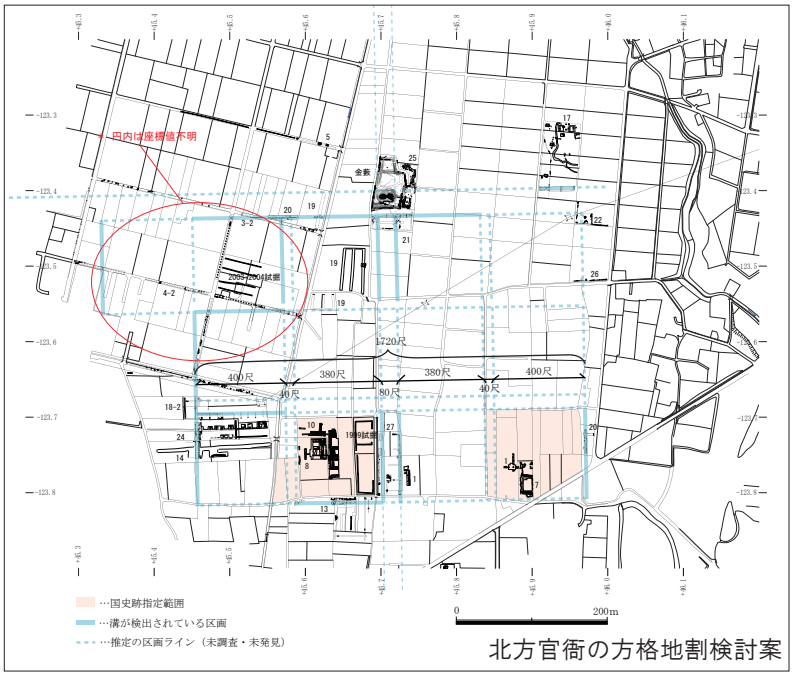
長者屋敷遺跡は、1992 年から続く発掘調査によって、奈良時代中頃の伊勢国府跡であることが確認されました。この成果をうけて、2002 年には矢下地区の政庁跡と南野・長塚地区の官衙群の計 3 か所 73,940 ㎡が国の史跡に指定されました。現在も鈴鹿市考古博物館によって毎年学術調査が行われています。

軒丸瓦

文字瓦「三」




調査区位置図




北方官衙の方格地割検討案

南北大路側溝検出状況

## 南北大路の発見と北方官衙の方格地割

今回の調査で、幅 80 尺の道路（南北大路）が確認されました。これは、従来考えられてきた北方官衙内部の地割のあり方を大きく変える発見でした。また、中央の道路幅だけが他の道路幅の倍の大きさをもつことから、官衙全体の設計がこの南北大路の中軸線を基準になされた可能性が高いこともわかってきました。

奈良時代の国府の中央を貫く南北大路。その南には政庁が、北には金藪と呼ばれる長者伝説の残る森があり、両者をこの大路がつないでいたことになります。

発掘調査地位置図
（１：75,000）

国土地理院発行の 1:25,000 地形図「鈴鹿」「亀山」を使用

◆寺院・官衙シリーズ講演会◆

「皇女の都『斎宮』の夜明け～大来皇女の時代～」

講　　師：山中　由紀子さん　（斎宮歴史博物館　学芸員）

日　　時：３月２０日（土）午後２時から

◆調査担当者によるスライド説明会◆

４月２４日（土）午後２時から「須賀遺跡」

５月１６日（日）午後２時から「伊勢国府跡」

鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013
三重県鈴鹿市国分町 224 番地
TEL 059-374-1994　　FAX 059-374-0986